

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 2月 17日提出

所 属	職 名	氏 名
社会学部 教育文化学科	助教	佐藤翔
研 究 題 目	利用者に新発見を促す書架要素の解明と新たな排架法の構築	
研 究 成 果 の 概 要	<p>社会の直面する問題が複雑化する現在、既存領域の枠を超えた知識創造の必要性が増している。その中で、図書館の排架には従来以上に新たな発見の提供により、利用者の知識構造の変化を促す機能が求められるようになってきている。しかし利用者はどのような書架を前にした場合に新たな発見を得ることがあるのか、その要素は必ずしも明らかになってはおらず、そのため発見を促すことを意図した排架の方法も確立されていない。そこで本研究では書架を用いた複数の実験を通じて、人が新たな発見を得る書架に共通する排架方法の要素を明らかに、それに基づいた新たな資料排架法を構築することを試みる。</p> <p>研究開始1年目の本年度は、まず人が書架をどのように見ているのか、視線の動線を明らかにすることを目的に、視線追尾装置を用いた一連の実験を計画・実行した。頭部に視線追尾装置を装着した被験者に対し、実験用に構築したタイトル順に図書を並べた書架の中から欲しい本を1冊選び出す課題実験を行った。結果から、被験者全員がまず書架を一覧しようとする事、その際には右上もしくは左上から一段ずつ、一方向に視線を動かしながら閲覧すること、ただし段が変わると視線を動かす方向も変わること等が確認された。以上の結果についてはこれまで2回の口頭発表を行っており[1][2]、現在論文投稿に向けてデータ整理を進めるとともに、条件を変えた比較実験の手順についても検討中である。</p> <p>[1]「人はどのように本棚を見ているのか? : 視線追尾装置を用いた実験」、佐藤翔(教育文化学会第24回年次大会, 於同志社大学) 2014.9</p> <p>[2]「ブラウジング時に人はどのように書架を見ているのか: 視線追尾装置を用いた書架閲覧実験」、佐藤翔, 安藤孝政, 寺井仁, 原田隆史, 逸村裕(第62回日本図書館情報学会研究大会, 於梅花女子大学) 2014.11</p>	